

はすだ観光協会ビジョン

2015～2024

～目指すべき体制と方向～

2015

はすだ観光協会

会長あいさつ



はすだ観光協会

会長 岩崎 一隆

蓮田市となって20年の歳月を経た平成5年、はすだ観光協会が生まれました。市が成長する過程で新たに生まれたものもありましたが、失われてしまったものもありました。そのような社会情勢の中、「私たちは私たちのまちのために歴史的遺産、自然、物産を探求し、どの様にとらえ、何をすべきかを検討し、自然を守り、かつ地域のふれあいを高める必要がある」という理念を掲げ、はすだ観光協会は設立されたのです。

設立以来はすだ観光協会は、行政と協力して、商工会をはじめ諸団体等の支援をいただきながら、観光資源の開発、観光施設の整備保存、観光情報の提供等、愛し愛される観光地づくりのため、各種事業を展開してまいりました。

しかしながら、その活動と成果は十分なものとはいえませんでした。「私たちが私たちのために」、この理念が行政との距離を作り、活動に苦勞することになりました。思うように活動できないことが、会員の減少を呼び、資金が不足するという悪循環に陥ってしまったのです。平成25年、設立20周年を祝う式典を行いました。それを機に、観光協会の新たな姿を目指す動きが出てきました。組織の見直し、会員の増強、自己財源の確保、新たな観光資源の開発などを目標に、会員が一丸となり、観光協会の本来あるべき姿を取り戻すためのスタートが切られたわけです。そして、その指針として「はすだ観光協会ビジョン2015～2024」を策定する運びになりました。

さて、私たちの住む蓮田市は、埼玉県の東部に位置し、都心から40キロメートル圏内にありながら、緑豊かな自然環境に恵まれ、歴史遺産が多い街として知られております。市の真ん中には元荒川が流れ、春には約500本のソメイヨシノが見事に咲き誇り、毎年多くの人々が花見を楽しんでいます。また秋には「コスモスまつり」や「そばまつり」が市内各所で催され賑わいを見せています。元荒川、黒浜沼、山ノ神沼をはじめ西城沼公園、根ヶ谷戸公園などは、水辺の憩いの場として、市内外のかたから親しまれています。歴史遺産として、国指定史跡の「黒浜貝塚」が存在するほか、七つの久伊豆神社等が点在しています。伝統文化としては、国選択民俗文化財・埼玉県指定無形文化財「閩戸の式三番」があり、これは埼玉県内で唯一継承されている式三番です。特産品として、甘い評判の梨もあります。地元の野菜や果物は、美味しく安心と好評です。こうして見えますと、私たちの街「蓮田市」は、魅力が満載だと思います。

策定され、ここに公表されたビジョンが、はすだ観光協会の活動の指針となり、必ずや本来あるべき姿を実現すると信じています。再スタートを切ったはすだ観光協会は、市内・市外を問わず、志を一にする他の団体と手を携え、観光資源の開発に関しては、特産品である梨のほか、地元の野菜など農産物の生産直売や市民まつりをはじめとする各種イベント開催に取り組み、自然環境と貴重な歴史と文化を継承しつつ、観光事業に力を注ぎ、市の活性化及びまちづくりに大きな役割を果たす所存です。

目次

会長あいさつ

目次

ビジョン策定専門部会

○役割

○メンバー

I. 序論

1. 策定の趣旨
2. 観光協会を取り巻く環境
3. 観光協会の現状と課題

II. 本論

1. 課題解決に必要なこと
2. これからの観光とは
3. ビジョン
4. ビジョン実現のために
 - (柱) 組織体制の確立
 - (支柱1) 財政の健全化
 - (支柱2) 観光資源の開発
 - (支柱3) 広報活動の充実
5. ビジョン概要図

6. 詳論

(柱) 組織体制の確立

①長期施策

②中期施策

③短期施策

(支柱1) 財政の健全化

①長期施策

②中期施策

③短期施策

(支柱2) 観光資源の開発

①長期施策

②中期施策

③短期施策

(支柱3) 広報活動の充実

①長期施策

②中期施策

③短期施策

III. 結論

1. 蓮田市の観光の将来像
2. まとめにかえて

ビジョン策定専門部会

○役割

はすだ観光協会が、これから目指す方向を明確に示すために、「はすだ観光協会ビジョン2015～2024」を策定すること。

○メンバー

(リーダー) 三井 誠三

(部会員・順不同) 中塚 裕、岩崎 一隆、小林 謙二、北村 義孝、
小森 豊政、添野 隆行

(事務局) 寺内 正明、櫻井 英幸

I. 序論

1. 策定の趣旨

「はすだ観光協会ビジョン2015～2024」は、観光協会が本来あるべき姿を示すとともに、蓮田市の観光の将来像を明らかにし、それを実現するための取り組みについての指針を示すものである。

なお、本ビジョンに掲げる取り組みについては、5年目に目標の達成度の検証を行い、内容の改善を図るとともに、「長期施策」との整合性を図りながら、必要に応じて改定していく。

2. 観光協会を取り巻く環境

観光協会は、「観光」を「単に見る・体験するではなく、産業振興や歴史的環境の保全などの地域づくりである」ととらえ、飲食業や宿泊業、各種サービス業や運輸業など関連の産業・商業にその効果が広範に及ぶとともに、雇用や税収にも大きな影響を及ぼす裾野が広い産業だと考えている。

また、こうした産業・商業面などの効果だけでなく、観光の振興による住民の地域に対する愛着心の向上や、来訪者と住民との交流など、経済的な側面だけでなく、様々な方面で大きな効果が期待されるものである。

しかしながら、蓮田市は、都心から近いこと、水辺空間を中心とする豊かな自然があること、伝統芸能が引き継がれていることなど、立地条件はよいにも関わらず、その条件を生かし切れていないのが現状である。

近年、先述のような効果が期待される観光を街づくりの核としなくてはいけな

い、という動きが蓮田市においても出てきている。市民が中心となって企画し、多大な成果を上げてきている「蓮田マラソン」のようなイベントも行われるようになってきた。縄文時代前期の標識遺跡である「黒浜貝塚」の国史跡指定も、追い風になるものと考えている。

3. 観光協会の現状と課題

このビジョンを策定するに当たり、現状を分析するところから始めた。分析は、「組織体制について」、「財政について」、「観光資源の活用について」、「情報の発信について」の4分野に分けて行った。その結果を順次記していく。

(1) 組織体制について

専門部会の中で、最も重要で、かつ問題の多い事項として挙げられたのは、この組織体制についてである。主な指摘事項としては、「会の組織形態が形式化された役員会中心であり、結果、会長の考えが優先され、議論に発展性がない」というものであった。この状況を打開するために、「会員全員を網羅した組織を確立するとともに、現在の委員会にもっと権限を与えて、スムーズに事案が進行するようにすべきである」ということが、今後の課題として挙がってきた。

また、「会員の高齢化もあり、常時活動できる会員が不足している」ことも課題として挙がり、「今後のスムーズな世代交代が必要だ」ということになった。

このほか現状の問題点として、「観光協会の目指すべき方向性が不透明であり、会員間の意識共有が希薄な為、その場しのぎの事業の遂行になっている」という厳しい指摘も出て、「観光協会とは、その街でどんな役割を果たすべきかよく議論し、執行役員同士でコンセンサスを得る必要があるのではないか」という意見が主流を占めた。

(2) 財政について

現状は、会費と市からの補助金が財源のほぼ全てであり、自主財源の不足は明らかである。会費以外の自主財源確保ができるかどうか、今後を左右することになるとの結論に至った。

自主財源の候補としては、グッズ販売、企業協賛金、会費増収、イベント収益、出版物刊行、事業収益、広告収入や宣伝手数料等が挙げられた。

また、「不要な支出をなくすべきだ」という意見もあり、不要な支出としては「研修旅行の補助や役員会費など」との意見が大半を占めた。

(3) 観光資源の活用について

この項目も活発な議論が展開された。観光協会の本来の役割の重要なパートで

あることに起因すると思われる。「街として特色が見当たらない」、「街として温泉などの観光ポイントや目立つ特産品及び名物がない」、「街として観光産業を盛り上げようとする気運が見受けられない」など、課題が次々と語られていった。「市民は観光産業に頼らなくても、充分満たされた楽しい生活を過ごしているから、観光産業を必要とする気運が出てこないのでは」といったその原因を探るような意見もあった。

蓮田市の置かれた状況だけでなく、観光協会のあり方にも疑問が投げかけられた。「市民から『蓮田に観光協会があったのか』などと言われる」、「観光協会がどんなことをしているか知らない人が多い」などである。この事実は、これまでの観光協会の活動について反省を促すものであり、そのことを真摯に受け止めなければいけないだろう。

厳しい現状を認識したわけであるが、その中からでも、「まだまだ諦めるのは早い」、「『東京から近い田舎』が蓮田なんだ」、「今は体験が受けるから『農業体験』はどうだろう」、「個人所有ではあるがこれまでに知られていない名所がある」など、希望が持てる意見も続出した。今ある観光資源をきちんと分析し、その結果を含めた蓮田市の売り方を考えていく、こうして新たな課題が生まれてきた。

見どころだけに限らず、グルメや特産品についても、同様に現状を分析し、新たな方向性を探ること、関係団体と密接な関係を築き、共同で開発や普及をしていく、などの課題が提示された。

(4) 情報の発信について

この分野も初めから厳しい意見が相次いだ。「蓮田の情報発信の最先端にいる事」、「開花状況や見ることのできる鳥など市内の季節の変化を含めた情報の集約と発信」、「広く蓮田の観光資源をPRし来訪者を増やす」などといった、本来していなければいけない活動が、ほとんどできていないことを再認識することになった。

一昨年公開を始めたホームページも、十分に活用されているとはいえない。企業や飲食店の紹介が大きな壁に当たっている。観光協会の認知度が低く、そこに載ることのメリットを事業所や店舗に感じてもらえない。観光協会唯一の広報媒体をもう一度見直していかなければならない。

市の広報との連携など、他団体の広報媒体との連携も課題として挙げられた。現状の観光協会の認知度を考えると、団体を相手にするだけでなく、個人のブログなどとも関係を持たせることも必要なのでは、要するに、口コミを大いに利用すべきだという意見も出た。

II. 本論

1. 課題解決に必要なこと

序論で述べた課題について、それを解決するために、何が必要で、どんなことをしていけば良いのか、を検討した。その結果が、策定するビジョンの根幹になっていくものと、部会では考えた。ここでは、課題について検討した結果を分野ごとに記していく。

(1) 組織体制について

組織体制として、役員会の活性化と委員会の強化、そして世代交代が大きな課題であった。これは、すべてにおいて関連することで、「大きな事業がないから、役員会もマンネリ化し、観光協会の魅力がなくなる、その結果、新たな会員が入会してこない」という図式が成り立つという意見でまとまった。

したがって、「協会が主催する大きなイベントを作っていくことが必要である」となった。大きなイベントを実施するためには、活発な議論や準備が必要になり、役員会が目標をもった議論の場になり、実際の活動を担う委員会の立場が明確になっていく。さらに、イベントを動かす力が必要で、若い人も入会しやすい環境が出来るはずという図式である。

ところが、このことを更に深く考えていくと、大きなイベントを実施するためには、相応の予算がいる、多くの人手がいる、そして、それを可能にするには、「観光協会ならやれるだろう」という実績と信用が絶対条件だ、ということになった。絶対条件を満たすこと、それには、観光協会が、「観光」の取り組みを機動的かつ具体的に進めていくための中核を担う組織とならなければならない。だから、「組織体制の確立」をビジョンの中核に据えよう、と結論付けた。ここまでの組織となれば、行政から独立し、法人格を取得したほうがよいだろう。そこまでのステップを、ビジョンの中で示していくことにした。

残りの3分野については、「組織体制の確立」という柱を支える支柱という位置付けにし、柱のステップに合わせる形で、その段階を示していくことにした。

(2) 財政について

財政の健全化のためには、安定した自主財源の確保と支出の無駄を省くことが必要である。不要な支出としては、県外研修や会議費など明白であり、対策はたてやすいが、自主財源については、いろいろ案はあるものの、今後、各委員会の

中で検討し、実現していくことになるだろう。自主財源としては、当面、グッズ販売、企業協賛金、会費増収に全力を尽くしていくことになると思われる。

(3) 観光資源の活用について

観光資源については、2つの方向性がある。ひとつは、既知の資源であり、もうひとつは、新たに創出する資源である。さらに、それぞれ、「見るもの」、「体験するもの」、「食べるもの」、「買うもの」などの分野に分けられる。

既知の資源の「見る」分野については、「観光協会会員が、蓮田の歴史や自然環境をきちんと知っているとは限らない。まずは、会員が実際に見て、学ぶべきだ」という見解が出された。自ら熟知して初めて、それをどう活用できるのかということが分かってくるはずである。さらに、案内板やトイレなどの施設も整備していくことを確認した。「見る」以外の既知の資源としては、「買う」ものに特産品としての梨があるくらいで、他にはないことを確認した。

こうしてみると、新たに創出する資源に大きく依存することになる。ただ、この場合でも、すでにあるもので知られていないもの、売り方を変えれば違う輝きを発揮しそうなもの、個人で所有するものや、一企業などで実施されているものなども含まれると考えることもできる。

いずれにしても、新たな資源の創出には、従来 of 風光明媚な自然、史跡、遺跡、歴史的建造物等にこだわらない観光資源をつくる柔軟な考え方が必要になってくるだろう。今、人を集めているところは、その売り方に工夫がある。人が何を求めているのか、冷静に探り、ニーズにあった売り方をしていかななくてはならない。市内には、店舗として成功している例や商品として成功した例がいくつかある。成功した例から学び、市全体として成功を導いていかななくては意味がない。そのかぎをこれからの観光協会が握っているのである。

グルメについても、遠方から幅広く多くのお客様を集めることができている店舗はある。観光協会も、呉汁を広めようと努力してきた。しかし、名物として定着したものはない。観光協会が中心となり、市や商工会との協力はもちろん、各店舗とも議論を交わしながら、名物料理を作り出していかなければならない。

特産品についても、梨などの食物に限らず、工芸品なども認定していくシステムが必要になる。これを作り上げていくことも、観光協会の仕事である。

(4) 情報の発信について

まずは、今持っている唯一の情報発信手段であるホームページの充実を図っていくことが先決である。充実のために必要な環境として、専任スタッフを配置しもっとホットな情報を提供できる体制をつくることとの結論に至った。さらに、もっと会員へ協力を求め、市内の各種情報を集めるシステムを築くことも重要な

要素であるとの議論がなされた。

現状と課題の項でも触れたが、蓮田の情報発信の最先端にいるという意識を会員全員が持たなければならない。そうでなければ、市内の名所、旧跡、イベント、伝統芸能、自然の現況、飲食店、土産を買うところなど、市外から来る人が、必要とする情報を網羅し、提供できる存在になることはできない。

情報発信の充実は、市外向けの効果だけでなく、市民に対しても、蓮田の観光について理解してもらうことや、観光協会の活動を知ってもらうことなどに役立つ、ひいては、会員の増加や協賛企業の増加にもつながるはずである。そういった意味でも、情報発信は重要な役目を果たすものであり、きちんとしたステップを踏みながら、充実を図っていかなくてはならない。

2. これからの観光とは

これまでのような単に見る・体験するのが観光だという定義ではなく、産業振興や歴史的環境の保全なども含めた地域づくり、街づくりをすることが観光であると考えて。つまり、観光によって、まちづくり・ひとづくりをしていこうということである。このように考えたとき、「その地域で交流する人々が、豊かで価値のある時間を過ごす、共有するといったものを提供するもの」が観光であると言い換えることができる。そして、その観光という取り組みを機動的かつ具体的に進めていくための中核を担う組織に、観光協会がならなくてはいけない。そうなるための基盤を強化すること、それを成し遂げるための長期計画を、次にビジョンとして掲げる。

3. ビジョン～目指すべき体制と方向～

はすだ観光協会が、今後目指すべき体制と方向を示し、それを実践していくため、次のようにビジョンを定める。

ビジョン：蓮田市で交流する人々が、豊かで価値のある時間を享受できる「観光」の取り組みを機動的かつ具体的に進めていくための中核を担う組織となるため、基盤の強化を図る。

4. ビジョン実現のために

今回策定したビジョンを実現していくために、「観光によるまちづくり・ひとづくり」を基本テーマとし、一つの柱と三つの支柱を掲げた。以下、専門部会での検討結果を踏まえ、これらについて概観する。個々の目標を実現することが、ビジョンを実現することにつながるものである。

(柱) 組織体制の確立

10年後までに法人格を取得することを最終目標とする。手順としては、事務局を行政から独立させ、常勤の職員を確保し、独立した事務所を所有するという段階を踏む。その間、必要に応じ、会の名称の変更を検討する。

また、すぐに取り掛かることとして、組織の明確化と会員間の連絡網の確立などが挙げられる。

(支柱1) 財政の健全化

10年後までに、独立を支える健全な財政を確立することを目標とする。観光に対する市民の意識の向上を図り、観光協会の事業を会費及び協賛金等でまかなえるようにしていく。

また、すぐに取り掛かることとして、会員の意識向上や会員増強、独自財源の検討などが挙げられる。

(支柱2) 観光資源の開発

10年後までに、市内で行うイベントを集約することを目標とする。市内ではいろいろなイベントが行われている。周辺と比較しても決して少なくない。ただ、その主催者がまたいろいろなのである。PRや集客、場所やスタッフの確保など、イベントでクリアしなくてはいけない課題は共通である。また、蓮田市を活性化させたいという思いも同じである。それならば、手を携えることは可能なはずである。その橋渡し役こそ、観光協会が担うべきところであろう。

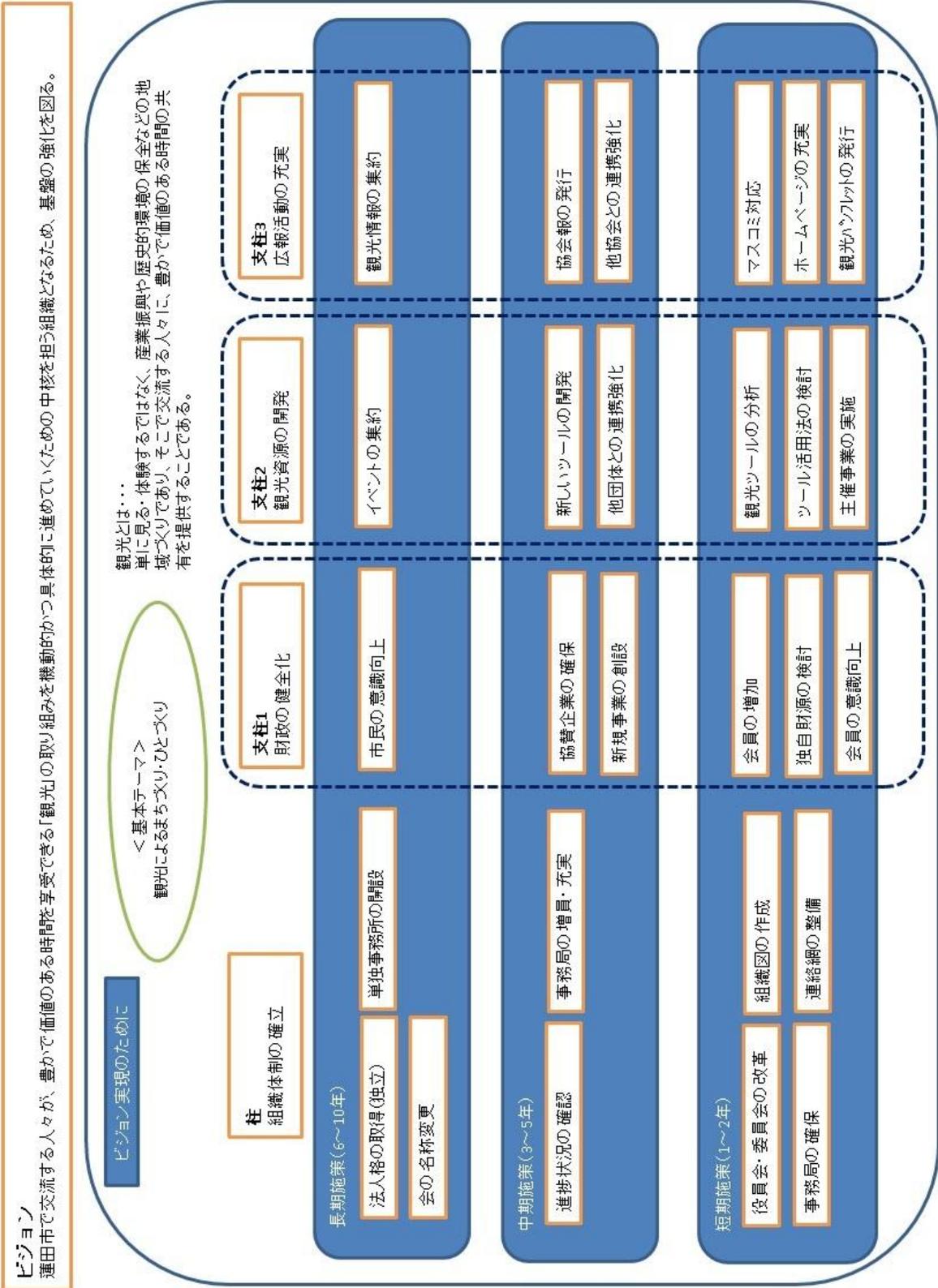
また、すぐ取り掛かることとして、観光ツールの分析や主催事業の実施などが挙げられる。

(支柱3) 広報活動の充実

10年後までに、市内の観光情報を網羅し発信していくことを目標とする。必要な情報、欲しい情報をどこに聞けばよいのか、それを総合的に把握しているところが、今のところ存在しない。観光協会に聞けばすべてが分かる、そのような観光協会にならなければいけない。

また、すぐに取り掛かることとして、ホームページの充実や観光パンフレットの発行が挙げられる。

5. ビジョン概要図 (ここまでの内容を図示した)



6. 詳論 (柱・支柱について、個々の施策について詳細を示す)

(柱) 組織体制の確立

①長期施策

- ・法人格の取得：法人格を取得し、行政から独立した組織となる。

現状	任意団体として活動しているが、事務局が市にあるなど、行政に頼る部分も多い。
内容	法人登記を行う。 登記の際、どのような法人にするのかも、併せて検討する必要がある。 (例) 一般社団法人、NPO法人

- ・単独事務所の開設：独立した法人として活動するために、独自の事務所を必要とする。

現状	事務所を持たず、市役所商工課において事務をとっている。また、ホームページの更新などの作業は、商工会館の一部を借りて行っている。
内容	事務所を持つ。 場所の候補としては、次の場所が考えられる。 ・商工会館内 ・蓮田駅西口再開発ビル内 ・蓮田観光物産館内 (蓮田駅前・新蓮田SA脇など)

- ・会の名称変更：法人格を取得するにあたり、蓮田市の観光及び街づくりの主役を担う組織にふさわしい名称に変更する。

現状	はすだ観光協会であり、市の文字がなく、市を代表する組織とは思われない可能性がある。
内容	ビジョンを実現するにふさわしい名称に変更していく。 観光だけにとらわれず、街づくりも含まれることをイメージできる名称が望ましい。 (例) 蓮田市観光街づくり協会、蓮田市観光振興協会、はすだ観光創造協会など

②中期施策

- ・進捗状況の確認：今回策定したビジョンの進行状況を確認し、必要があれば見直しをする。

現状	2015年5月 日、総会において、このビジョンを承認。
内容	中間である5年目に、進捗状況を確認し、必要に応じて手直しを行う。

- ・事務局の増員・充実：会の活動を活発にするために、事務局の充実を図る。

現状	市役所商工課職員が他の業務と兼務で事務局をしている。
内容	事務局に専任の職員を複数人おく。

③短期施策

- ・役員会・委員会の改革：役員会と委員会の権限や運用をより機能的なものに変える。

現状	3つの委員会があるが、何ら決定権はなく、素案を作成するだけの機関になっている。役員会も開催回数が多く、出席率が低下している。
内容	役員会の負担を減らし、委員会が活発化するために、次の内容の変更をする。 <ul style="list-style-type: none">・委員会又は専門部会の扱う内容を明確にする。・委員会に軽微な事項についての決定権を与える。・委員会ごとに予算を計上し、その執行権限を与える。

- ・組織図の作成：協会の組織体制を明確にし、会員の意識向上と外部へのアピールを図るため、組織図を作成する。

現状	組織図は存在せず、役員の役割や役員会、委員会などの関係が明確になっていない。
内容	組織体制を明確に表現する組織図を作成する。

- ・事務局の確保：行政からの独立の第一歩として、市役所外に事務局を確保する。

現状	市役所商工課が事務局となっている。
内容	現在、ホームページの更新を主たる目的として、商工会館の一室を借りている。 このことから、商工会事務局に事務局を委託することを第一候補として、市役所商工課からの事務局移設を検討していく。

- ・連絡網の整備：各種会合、イベントなどの連絡のための連絡網を整備する。

現状	特定の連絡手段をもたず、必要がある場合は郵送としている。
内容	メールを利用し、事務局から発信する形に整備する。 メールの使えない会員に対しては、役員からの電話による連絡網を整備する。

(支柱1) 財政の健全化

①長期施策

- ・市民意識の向上：市民一人ひとりが、蓮田市へ人を呼ぶための意識を持ち、全員で、観光や街づくりに取り組む姿勢を築くことで、そのための資金を調達しやすくする。

現状	はすだ観光協会の認知度が低く、蓮田に人を呼ぼうという動きが、一部の人たちの力に偏ってしまっている。したがって、観光協会の資金力は極めて低い。
内容	まずは、観光協会の存在感を増すことが急務である。その後、各種イベント等をとおして、市民に観光や街づくりに対する興味を持ってもらう。多くの人が、会員となり、活動に参加してもらったり、参加できなくても、積極的に協賛してもらったりできるような雰囲気づくりをしていく。

②中期施策

- ・協賛企業の確保：観光協会の活動を理解し、常に協賛してもらえる企業を確保する。

現状	観光協会の存在すら知らない企業が多い中、協賛を得るのは、極めて困難な状況にある。
内容	観光協会の存在、活動を知ってもらい、理解してもらえるよう、PRに努める。 企業が、団体会員として入会してもらえるか、または、入会まではいなくても、協賛金等を出してもらえるようになるまで、そのPRを継続する。

- ・新規事業の創設：新たな財源となるような事業を創設する。

現状	資金がない、人手がないということで、「新しいことをする」ことに積極的でない。
内容	支柱2や支柱3との連携を図りながら、観光協会として、どんな事業を行うことが可能なのかを検討していく。内容としては、ビジョンに沿ったものにすべきであり、お金になれば何でもよい、ということではない。

③短期施策

- ・会員の増加：会費の増収や活動の活発化のため、入会を促進する。

現状	会費未納の会員、退会者などがいる。入会者数はあまり伸びていない。
内容	この施策も、支柱2や支柱3との連携が重要になる。 観光協会の認知度が高まるまでの間は、現会員による、個々の勧誘が即効性のある方法である。また、観光及び街づくりにおける主役になるためには、他の団体との関係もポイントになるので、団体会員の増加には、特に力を注ぐ。

- ・独自財源の検討：法人格を持つ、行政から独立した組織となるため、市からの補助金に頼らなくてもいいように、独自の財源を確保する施策を考える。

現状	市からの補助金以外は、会費以外に主たる財源はない。
内容	<p>独自財源となりうるものを検討し、可能なものから実施していく。なお、実施に際しては、適当と思われる委員会に依頼するなど、方法についても十分に検討し、実現性のあるものにしなくてはならない。</p> <p>独自財源の候補としては、次のものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業ごとに企業からの協賛金をもらう ・観光協会グッズを開発し販売する ・参加費による収入を確保するため主催イベントを実施する

- ・会員の意識向上：蓮田市の観光や街づくりは、観光協会が主役だという意識を会員全員が持つ。

現状	資金も人手もないから、共催や後援でいいという意識が強い。また、県外研修のみに参加する会員も相当数存在する。
内容	これまでのように、役員や特定の会員だけが参加してイベントを行うのではなく、数多くの会員に参加を促し、自分たちが、観光や街づくりのリーダーになるという意識を持ってもらう。

(支柱2) 観光資源の開発

①長期施策

- ・イベントの集約：現在実施されているイベントは、主催がそれぞれ別の団体であるので、これを観光協会主催に集約する。

現状	各イベントへの共催・後援に終始している。
内容	<p>各イベントの主催団体との連携を強める。</p> <p>主催を譲り受けられるイベントから、順次受けていく。</p> <p>市から補助金が出ているイベントを譲り受けた場合、その補助金も受け取ることができるので、収入の増加につながる。</p>

②中期施策

- ・新しいツールの開発：短期施策で、検討したことをもとに、誘客及び街づくりのための新たなツールを創設する。

現状	いろいろ案はでていますが、どれも現実味を帯びていない。
内容	組織としての独立や独自財源の確保、市民意識の向上などの目的のために、新たに取り組むべき事業を作り出す。

- ・他団体との連携強化：観光及び街づくりに関することを観光協会が集約していくために、商工会・自治連合会など他団体との連携を強化していく。

現状	イベントにおける共催や後援の関係しか築けていない。
内容	各イベントの主催団体との連携を強める。 さらに、団体会員としての加入を進めていく。 条件によっては、相互加入も視野に入れていく。

③短期施策

- ・観光ツールの分析：観光資源に関して現状を分析し、中期施策の資料とする。

現状	見どころなどを、ガイドマップやホームページで紹介するにとどまる。
内容	資源の現状を正確に分析（内容、興味を持つ層、所有者など）し、一覧化する。

- ・ツール活用法の検討：現状を分析したツールの活用法を検討する。

現状	ガイドマップなどでの紹介とウォーキングコースの作成をしている。
内容	分析結果をもとに、その資源にあったPR方法や、活用方法を検討していく。

- ・主催事業の実施：観光協会主催事業を行う。

現状	久伊豆神社めぐりなどの主催事業を実施している。
内容	実施可能な主催事業を考案し、実施していく。

(支柱3) 広報活動の充実

①長期施策

- ・観光情報の集約：観光協会が、蓮田市内の観光情報のすべてを把握し発信していく。

現状	個人の力による情報収集となっている。
内容	蓮田市に来てみようと考える人が必要とする情報の全てを観光協会が把握し、発信し、問い合わせに答えるような体制を整える。

②中期施策

- ・協会報の発行：観光協会の情報発信ツールの一つとして、協会報を発行する。

現状	情報発信の手段はホームページだけである。
内容	観光協会の活動や手にしている情報を会員や外部に発信するため、協会報を発行する。 季刊を目指す。

- ・他協会との連携強化：他地域の観光協会と連携し、情報収集・発信の力を強化する。

現状	連携していない。
内容	お互いの情報の交換や相互掲載を当面の目標とする。 イベントの共同開催なども模索していく。 相互加入など、正式な提携を結べれば理想的である。

③短期施策

- ・マスコミ対応：マスコミへの情報提供や取材対応をきちんとしていく。

現状	観光協会として、特に対応していない。
内容	観光協会として、積極的にマスコミと関係を持って、連携を強化していく。

- ・ホームページの充実：更新頻度を増し、情報量を増やし、ホームページのさらなる充実を目指す。

現状	唯一の情報発信ツールとして存在しているが、更新頻度が少ない。
内容	毎日更新できれば理想である。

- ・観光パンフレットの発行：これまで刊行された観光パンフレットの内容を検討し、蓮田市に行ってみようと考えている人が、必要とする情報を載せたものを発行する。

現状	従来通りの観光ガイドマップなどを発行している。
内容	今後も観光パンフレットの発行を続けていく。 ただし、その内容をよく検討し、必要な情報が確実に手に入るようなパンフレットにする。 サイズについても、目的に応じて使い分けられるような、各サイズを用意する。

Ⅲ. 結論

1. 蓮田市の観光の将来像

蓮田市に住んでいる人と、蓮田市を訪れた人との交流が活発に行われ、市民や事業者が一体となって観光客をもてなすとともに、もてなす側も蓮田が好きで楽しく活動している。そんな雰囲気を持つ蓮田市は、新しい事業への挑戦にも積極的で、活動する若い人たちを先輩たちが支えるといった、人と人がつながる街になっている。当然、人材も豊富で、それが財産となっている。いわゆる人財があふれる街である。

その中核に位置する観光協会の会員もやる気に満ちていて、行政の枠組みではできない発想や企画で、さらに蓮田市を盛り上げている。そんな観光協会が仲立ちとなり、多くの団体が魅力あふれたイベントを行っている。蓮田松韻高校、人間総合科学大学、日本薬科大学などの学生との関係も密接で、素晴らしい協同作業が実現している。

蓮田駅前には市の観光案内所があり、専門のスタッフが訪れる人の要望に応じた情報を提供している。また、観光グッズも充実していて、訪れる人に買う楽しみを提供している。グッズだけでなく、市内では、名物や特産品をはじめ、多種のグルメや土産の品が揃っている。

このような、蓮田市の観光の将来像が、夢に終わることのないよう、はすだ観光協会は、会員一同、全力をつくして、ビジョンの実現に努力し続ける。

2. まとめにかえて～ビジョン策定専門部会リーダーから～

みなさん、突然ですが『将軍さくら』をご存じでしょうか？ 下蓮田の慶福寺にある樹齢90年にならんとする江戸彼岸さくら（枝垂れさくら）で、毎年3月彼岸の頃に咲く、たいへん美しいボリューム感のある一本桜です。ご覧になったことがありますか？

蓮田においては、一般的に“観光”と言うと、あまりピンと来ない方が多いと思います。それもある意味、止むを得ないかも知れません。メジャーな観光資源が少ないからです。埼玉県自体が、全国的に見渡しても観光客の入込数は下位です。

しかし、地元蓮田に住んでいる私たちから見たら、そんな状況に甘んじる訳には行きません。ふるさとを歩いてみれば、国指定の黒浜貝塚遺跡やその他たくさんの歴史的な遺跡・史跡や文化財がごろごろ転がっています。何ととっても大都会から40kmの一番近い田園都市ということで、鉄道だと都心から40分で来られ、また車でも国道122号線や新大宮栗橋線バイパスなどたいへん便利なロケーションです。市内を散策すれば、緑が多く、元荒川や綾瀬川・見沼代用水などの河川や、黒浜沼・

西城沼・山ノ神沼の湖沼など水辺が身近に存在し、心が癒され空気もたいへんうまい。

そして身近なところにたいへん美味しい食材があり、お酒もおいしい造り酒屋があり、親しみやすいお店も多くあります。

そんな素晴らしいふるさと蓮田について、果たして市民のみなさん方はどれほどご存じでしょうか？郷土の歴史や文化財を、学んで、見て、歩いて、知ることにより、ご自分の住んでいるまちについて、たいへん愛着が湧いてくるものです。まず、ふるさとをよく知ることが重要です。

そして、観光協会のやるべきこととして、まずは広く市民のみなさんにそんなふるさとの価値ある観光資源を、十分にPRしてゆくことが求められています。いろいろなイベントや主催事業を企画実施することにより、あらゆる機会を通じて市民のみなさんに地道に広報をしてゆくことが大事です。市民のみなさんがふるさとを“いいまちだ”と思うようになると、口コミで親類や友人たちに伝えてくれる広報マンになっていただけます。そうして市外からも徐々に来訪者が増えてくるのが期待できます。さらにその人たちの中から、気に入っていただければ、居住者も出てくるかもしれません。観光協会としては、ますます行政との連携した広報活動が重要になってきます。

観光協会が誕生して、昨年で満20年目を迎えました。これを機会に、過去の経緯はさておき、現状をよく分析し、今後10年先を目指して観光協会が一体何をなすべきか、を改めて考えてみる必要性を感じます。ここに『はすだ観光協会ビジョン検討専門部会』を発足させ、昨年半ばから逐次会議を開催、10年後の蓮田における観光事業のビジョン（姿）を検討してきました。そしてこの度、その基本計画「はすだ観光協会ビジョン2015～2024」が完成しました。

今後10年間の観光の取組について、この計画を実りあるものにするには、広く市民のみなさんのご理解をいただき、一人でも多くの方々のご協力を得ながら、確実に実行してゆく実行力が何よりも求められます。季節季節で魅力のある親しみやすいイベントを企画し、たくさんの市民のみなさんのご参加を得て、市民同士が交流し、商工農業が活性化し、蓮田のまちが元気になるよう努力します。

その結果、市民一人一人がこの蓮田のまちに暮らしてよかったと思える、また地元で愛着がもてるまちだと感じていただけるような、蓮田市の将来を見据えて、広く市民のみなさんと共に歩む観光協会を目指して参ります。

はすだ観光協会ビジョン2015～2024
～目指すべき体制と方向～

発行日 2015年5月23日

発行所 はすだ観光協会
〒349-0193

埼玉県蓮田市黒浜2799-1
蓮田市環境経済部商工課内

発行人 はすだ観光協会ビジョン策定専門部会